

医療法人アスムス

〒323-0014 小山市大字喜沢1475番地328 TEL0285(24)6565/http://www5.ocn.ne.jp/~kiboukai/

地域包括ケアシステムの構築を目指して

~地域連携と多職種協働の推進~

平成24年度 在宅医療連携拠点事業

地域の産業との複合体 医療・介護専門職を超えた多機能施設連携モデル



おやま城北クリニック





地域連携

行政・地区医師会との連携

- ◆小山市◆ 災害発生時対応策 ≪復興枠≫
- ・災害時対応をテーマに、市役所の関係部署と共催で「災害時対応出前講座」 2013.3月14日 35人参加(ケアマネジャー、訪問看護、訪問介護、地域包括 支援センター、小山市役所関係部署(高齢いきがい課、福祉課、健康増 進課、防災対策課)、栃木県県南健康福祉センターなどから参加

◆栃木市◆

- ・栃木市は「社会福祉推進委員会」を設置するなど高齢者福祉にも力をいれている
- ・市医師会「在宅医療推進委員会」を開催し 今年度、拠点事業に位置付け、行政も参加 「栃木市地域包括ケア推進ネットワーク」 (「栃木市あったかネット」)スタート予定)

2013. 3.18 宣言

・拠点が医師会有志に在支診、強化型 在支診推進のための学習会開催

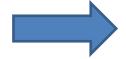
・歯科医師会とケアマネージャーの 研修会を開催(栃木・小山地区合同)2013年3月3日 2013年3月5日

多職種連携 蔵の街コミュニティ研究会

- ◆ 2000年4月発足 栃木市 市民主導型 ネットワーク活動
- ◆発起人

医師、薬剤師、社会福祉士(ケアマネージャー)、保健師、介護福祉専門学校講師、

民間介護事業者、工務店経営者(住宅改修)、栃木市介護保険担当行政官



多職種連携 現在 リーダーは薬剤師

◆設立趣旨◆

在宅介護を支えるため、医師、看護師、薬剤師などの専門職だけでなく、地域に暮らす全ての人々全体の介護力を高め、「幸せに生きる」コミュニティの実現を目指す。

◆活動実績及び会員集◆

- 定例会開催 72回(2000年4月~2012年10月)
- 会員300名以上(発足時 約40)1回の定例会参加、約20名~70名
- 懇親会参加人数、約15名~20名

在宅ケアネットワーク栃木(1997年開始)、

蔵の街コミュニティケア研究会

の活動から見えてくること

- 多職種間の交流を深め、異なる職種の職能 を理解し・言語を知り・精神文化にふれることができる。
- 理念や目標を共有することができ、それぞれの役割が見えてくる。
- 質の高い利用者本位のケアの提供につながる。
- チームとして多角的・多面的に、利用者とかかわることができる。

地域住民への普及・啓発 市民フォーラム開催

在宅での療養・看取りは「文化」であるとの視点

専門職の学習理解の場の提供と合わせ、市民向けの啓発活動に取り組んでいる

- 9月9日 市民フォーラム 地域包括ケアシステムを考える〜住み慣れたわが家で最期まで 基調講演 石飛 幸三先生「口から食べられなくなったらどうしますか」 シンポジウム「つむぎ、つなぎ、つながる医療をはぐくむ」
- 11月3日 市民フォーラム 地域包括ケアシステムを考える 基調講演 田城 孝雄先生「今、なぜ在宅医療なのか?」 シンポジウム「地域包括ケア時代」
- 2月11日 第17回在宅ケアネットワーク栃木フォーラム 共催 基調講演 I 山崎一洋下野新聞記者「・・・『長期連載終章を生きる』を取材して」 基調講演 II 秋山正子白十字訪問看護ST統括所長「…暮らしの保健室で見えてきたこと」
- 2月24日 栃木県医師会と共催 在宅に関するフォーラム 基調講演 飯島 勝矢先生 「超高齢社会を生きる 在宅への期待」 特別講演 玉木 朝子先生「衆院議員として取り組んだ難病対策と今後の課題」

メディアの活用

- ◆下野新聞や読売新聞などの在宅医療に関する記事等の取材協力 下野新聞「終章を生きる」 日本医療ジャーナリスト賞受賞
- ◆小山テレビ 9月9日開催のフォーラムを録画し、放送
- ◆NHK 在宅医療に関する情報提供
- ◆地元テレビ局の県広報番組で栃木県医師会とアスムスの紹介 「週刊とちぎ元気通信・とちぎの在宅医療

~自分らしい医療を受ける~」

栃木県医師会との連携

もう1つの拠点事業者 栃木県医師会と連携し活動

- ◆県医師会は12月に栃木県在宅療養支援診療所・病院連絡会を設立
- ◆県医師会前原副会長が看護協会訪問看護ステーションと連携し、 「在宅療養支援者の会(みぶの会)」定期的に多職種勉強会を実施。
- ◆医師会との連携は重要、常に連絡、協力し合い、県域全体を踏まえて拠点事業を推進している。
- ◆2月24日は、栃木県医師会との共催で、在宅医療フォーラムを開催。

まとめ

- ◆多職種協働を強化し、質の高い在宅ケアの提供につなげる
- ◆自治体、医師会、職能団体と「顔の見える」関係を強化し、信頼関係蓄積



点と点のつながりから面へのつながり

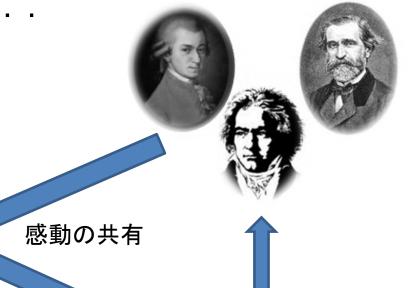


◆利用者も含め、行政・医師会、多職種協働でよりよいチーム医療を展開 するためのモデル作りをしていく。



面のつながりから、縦横なつながり 文化をつくり、育てる地域づくり、まちづくりへとすすめる (知識と経験、感動を共有することが文化をつくり育てます) チーム医療を クラッシックコンサートにたとえると・・・





Composer

Orchestra = Team ?

Composer/Orchestra/Audience

= Team

Conductor

◆在宅医療の普及・推進の指数は、最期を「どのよう に生きるか」の選択肢として、生活の場を選ぶ人の数 が増えることだと考える。高齢者が自宅で最期を迎え ることがあたりまえだった30数年前。今は、条件環境 が大きく違ってきているが、希望すれば生活の場で最 期まで過ごすことができる文化としての在宅医療、す なわち利用者と専門職の枠を超えて、知識と経験と感 動を共有し、在宅療養に対する市民の意識改革を支 援し、住み慣れた我が家で最期まで暮らせるコミュニ ティの構築に力を注いでいきたい。



地域に文化をつくる